

翔鸞幼稚園だより



令和4年10月1日 京都市立翔鸞幼稚園 園長 村山 得太郎

運動会に向けて

寒暖の差が激しく、体調管理の難しい日が続いています。子どもたちは10月22日(土)の運動会に向けて、運動遊びに取り組んでいます。登園後は、「ちょっとだけ体操」でウォーミングアップ、なかなか楽しい体操で、少し動いたり、伸びたり、怒ったり、笑ったりします。「しゃがむ→止まる」「ひらく→ひらく」など、一緒にやるのが大変です。お家でも一緒にやってみてください。その後は、かけっこをしています。走るたにかっこよく、早く走れるようになってきています。そら組ではリレーやしっぽ取りが始まっています。リレーは、走り方やバトンの渡し方などを試しながら、応援もしながら楽しんでやっています。



ちょっとだけたいそう(ひらく)



にじ かけっこ



そら リレー

令和5年度入園募集

今年度は10月12日(水)～10月25日(火)の期間に入園願書交付・受付を行います。お知り合いの方で未就園のお子様がおられましたら、ご紹介いただければありがたいです。よろしく願いいたします。途中入園も随時受け付けています。

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「**京都はぐくみ憲章**」を実践しましょう!



園内研究より

今年度、翔鸞幼稚園では、園内の研究主題を「ときめき・ひらめきを生む保



育を目指して」とし、子どもたちが心を動かして「ときめいたり、ひらめいたり」して夢中に遊ぶときのエピソードをもとに子どもたちが将来に渡って必要となる様々な「資質・能力」を育ていけるよう、環境構成や援助について研究を積み重ねています。門の近くに掲示してありますので、登降園の際、ご覧ください。

10月の行事予定

4日(火) 歯科検診

7日(金) 体重測定

12日(水) 入園願書交付・受付

14日(金) 月間絵本の日

16日(日) ノーテレビ・ノーゲームデー

22日(土) 運動会(小学校体育館)

24日(月) 代休・諸費用最終納入日

27日(木) 園外保育

◇にじ・そら…鉄道博物館 傘決行

◇ひかり…船岡山 傘31日

28日(金) 誕生日会

31日(月) 幼稚園大会説明会(そら)

◆11月の主な予定

24日(木) 幼稚園大会(そら)

※にじ組・ひかり組は休園です。

29日(火) 園外保育(全学年 動物園)

※11月下旬より個人懇談を予定しています。

遊びや運動と脳の発達について

(1)「遊びと運動が脳を育てる」

～脳幹について～

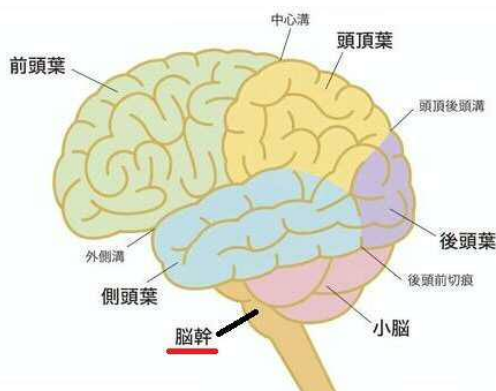
①脳幹は、情報の入り口でフィルターである。

→体の各部分の感覚が情報として神経から脳に伝わってくる場所を脳幹といい、意識するかしないかの整理や仕分けをしています。例えば、耳には本当は様々な音が入っているはずですが、エアコンの音や車の音、生活音などです。しかし、人と話をしているときには大きい音でないかぎり、邪魔にはならず、必要な内容だけを聞き取れるようになっています。

②脳幹が働くことによって情報が統合される。

→脳幹がうまく働かないと体の様々な感覚が統合されず、運動が苦手になったり、姿勢やバランスが悪くなったりするようです。

③脳幹に刺激を与えるには、様々な感覚を体感しなければなりません。例えば、ブランコで揺れる、トランポリンで跳ぶなどでバランスをとったりすることです。また、力を入れて筋肉や関節を使うこと。例えば、鉄棒や木登り。そして、皮膚の感覚を通しての刺激、粘土をこねたり、砂遊びをしたり、泡で遊んだりということです。このように脳幹に刺激を与えることによって脳の機能が発達していくようです。



(2)「幼児の運動指針について」

①遊びは内発的動機づけによって行われる。

内発的動機づけとは「その遊びや運動そのものに魅力を感じている。」ということ、まさに主体的に遊んでいる様子です。例えば、「走る」ことが楽しいので何度でも走って遊ぶのは、内発的動機づけと言えますが、1周走ったらシールを貼ってあげるという約束で何度もシールをもらうために走るのは外発的動機づけになり、遊んでいることにはならないということです。ここには2つのポイントがあり、「自分で決めている」ということと「自分是可以る」ということです。子どもたちに上手にはたらきかけ、主体的に遊ばせ、できることを認めていくことが大切だと思います。

②幼児期の運動は神経系を発達させる (1) 参照

一つの運動遊びではなく、できるだけ多種多様な運動遊びを経験する中で神経系が発達し、運動を調整する能力が向上するようです。例えば、「走る」という動作でも直線やジグザグ、カーブなど、走る方向を変えてみたり、速くや遅くなど、スピードを変えてみたり、横(後ろ)向きや駆け上がりをやってみたりすると思います。



③運動遊びに気が向かない子どもに対しては…

少しでもできることから始めて、できることを増やしていったり、思わずやってみたくなるような工夫をしたり、少しでもできたところをほめて自信を持たせたりしながら、やってみてはいかがでしょうか。

※やはり、この時期は遊び、特に体を使った遊びが大切で、それが脳幹(脳の情報の入口)の発達を促し、脳の土台をつくると言われています。そして、それが、将来の思考力や認知能力の向上に役立つと言われています。また、運動遊びを通して非認知能力(やる気ややり抜く力、粘り強さなど)も育っていくと言われています。